

## 豊かな体験活動推進校 上吉影小学校

### 1 取組の概要及び成果等

#### (1) 取組の概要

- 小美玉市小川地区自然教室（第5学年）
  - ・ 磐梯山登山，阿武隈洞見学，他校との交流，あかべこ絵付け体験，アクアマリン福島見学
- 吉影幼稚園との交流（第3・5学年，他学年）
  - ・ 入園式 ・ 交流レクリエーション，運動会，豆まき集会（第5学年）
  - ・ 収穫祭学習発表交流会（全学年）
- 水戸地域農業改良普及センター等との連携による農業体験活動（全学年）
  - ・ 学校農園へのサツマイモ・ニラ等の植え付けと収穫，収穫祭での販売（青年農業士会，PTA役員の支援を受けて全校で実施）
  - ・ 「いちご」収穫体験（拓実の会で作られたイチゴを収穫）

#### (2) 特に工夫や配慮をした事項

- 小美玉市小川地区自然教室（第5学年）
  - ・ 自然に関わる体験活動として登山や阿武隈洞・アクアマリン福島見学を行った。
- 吉影幼稚園との交流（第3・5学年，他学年）
  - ・ 併設の施設という利便性と卒園児のほとんどが本校へ入学するという点を生かすとともに，思いやりの心を育むことをねらって取り組んだ。
- 水戸地域農業改良普及センター等との連携による農業体験活動（全学年）
  - ・ PTA会長を始めとして農業従事者の多い地域であり，広い学校農園を有していることや，イチゴ経営などで先進的な取組みがあり協力が得られる地域であることを生かして取り組んだ。また今年度も水戸地域農業改良普及センターの方や青年農業士会の方々の協力を得て進めた。各学年の農園でも作物を栽培し，本校の学校行事である収穫祭で各学年での販売も行った。

#### (3) 成果等

- 小美玉市小川地区自然教室（第5学年）

自然教室は，小川5校と玉里3校の小学生により4日間にわたり行われた。その中でも自然に関わる体験活動として磐梯山登山を行った。協力して登ることで心と体をたくましくきたえることができたようである。なお，本校5年生による阿武隈洞・アクアマリン福島見学も自然に関わる体験活動であり，あかべこ絵付け体験は文化や芸術に関わる体験活動でもあった。

自然教室を通して，自然とのふれあいを深め，自然を愛する豊かな心を育みながら，友だちをたくさん作り，団体生活のきまりや公衆道徳を身に付けることができたようである。また，自然の中で心身を鍛えるとともに，積極的に行動する態度を自然に身に付けていったようである。
- 吉影幼稚園との交流（第3・5学年，他学年）

交流に関わる体験活動として，吉影幼稚園との交流を行った。1学期には入園式において，5年生が花のアーチやリコーダーの演奏で園児を迎え，5月にはレクリエーションによる交流が行われた。竹馬や一輪車，サッカーなどの模範演技を5学年児童が示した後，班に分かれて園児とともに活動した。5年生はさらに運動会などを通して交流を深めることができた。

吉影幼稚園が敷地内に隣接しているという地の利を生かして，安全に多くの交流活動を実施し，思いやりの心を育てることができた。
- 水戸地域農業改良普及センター等との連携による農業体験活動（全学年）

勤労生産に関わる体験活動としては、農業体験活動を行った。水戸地域農業改良普及センターの方や青年農業士会に所属するPTA会長をはじめとする皆さんの指導と支援を受け、全校児童でサツマイモ・ニラ等を学校農園に植え付けて栽培した。サツマイモ植え付けは全校児童で行い、ニラ苗の植え付けは3・4年生が、ニラ専業農家であるPTA会長の指導を受けて、学級農園へ行った。

これらのサツマイモ・ニラ作りは学校行事である収穫祭を見越して行ったものであるが、収穫後、家庭へ持ち帰った他、収穫祭でサツマイモ汁の材料としたり、バザーで販売したりした。約4キログラムになる最大のイモは校内に飾られた。ニラの収穫は4学年児童がPTA会長の指導を受けて収穫し、収穫祭のバザーで子どもたちが販売した。2年生や6年生などの学年でも、自分たちで育てた白菜、大根、落花生、大根、にんじんなどを販売した。

学校支援委員会や諸団体との連携を図りながら計画的に農業体験に取り組む中で、児童は、作物とのかかわりと収穫の喜びを味わい、農業や食生活への理解や関心を深めることができた。

## 2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

### (1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

#### ◎ 学校の推進体制

校長・教頭

教務主任→学年担任←養護教諭

保護者等

### (2) 成果等（推進体制の充実、関係者との連携・協力の観点から）

推進体制は、各学年担任が中心となって取り組めるように改善を図った。学校支援委員会は諸活動との関連を図り、円滑に進められるように専門的なメンバーによって構成した。自然体験学習では、市内小川地区の推進体制の下、関係職員の連携によって上記の活動が円滑に進められ、5年生は3泊4日の宿泊を伴う自然体験学習に安全かつ意欲的に取り組むことができた。

農業体験活動では、専門的な関係諸団体との連携を図りながら計画的に取り組み、本校ならではのすばらしい成果をあげることができた。幼小交流では、吉影幼稚園が敷地内に隣接しているので、幼稚園職員等関係者との連携・協力がタイムリーかつ安全により多くの交流活動を実施することができた。

## 3 今後の課題と改善点

- 今年度は、JAの依頼を受けて、収穫後の農園に玉ねぎの苗を植え付けたりしたが、空いている場所の活用や管理などを計画的に進めたい。
- 吉影幼稚園児との交流については、園と小学校の行事やスケジュールの調整等の関係で全学年での交流活動を増やすには至らなかった。本校の縦割り班活動に組み込むなどのカリキュラム上の工夫などが課題となる。
- 学校支援委員会の組織の見直しと推進体制の充実を図る。